



釧路市立博物館

この博物館は、創立よりすでに半世紀を経過し、国内における地方総合博物館としては草分け的な存在です。春採湖はもとより、釧路湿原情報、北方の昆虫、北の海の魚類、開拓記念物、アイヌ民族資料など、多くの展示資料が見られます。

春採湖ネイチャーセンター

春採公園について知りたい方はここネイチャーセンターへ。指導員が親切に春採公園の自然について解説してくれます（要電話連絡）。また、春採湖についてのパンフレット類もここで入手可能。ぜひ、立ち寄ってみて下さい。

見どころ満載!!



交通
くしろバス 若草団地線・文苑、公住線・白樺線・昆布森線
ポスフルイオン線・南北線/市立病院下車

問い合わせ先
・釧路市立博物館……………0154(41)5809
(案内：有料 開館 9:30~16:30
休館日 月曜日、祝日、12月31日~1月5日)
・春採湖ネイチャーセンター……………0154(42)4212
(案内：無料 開館 4~10月10:30~16:00
(10月のみ15:30まで) 休館日 月曜日)



- 水辺の鳥 (主に春~秋)**
●カイツブリ ●スズガモ ●バン
●ホシハジロ ●マガモ ●オオバン
●ウミネコ ●アジサシ ●アオサギ

- 水辺の鳥 (主に冬) ※結氷前後**
●キンクロハジロ ●ヒドリガモ ●コガモ
●ミコアイサ ●オナガガモ ●オオハクチョウ

- 野鳥 (1年中)**
●アカゲラ ●シジュウカラ
●ゴジュウカラ ●ハシブトガラ

- 野鳥 (主に冬)**
●キレンジャク ●カケス
●ツグミ

- 野鳥 (主に春~秋)**
●カワラヒワ ●ハクセキレイ ●コムドリ
●エゾセンニュウ ●ショウドウツバメ
●センダイムシクイ ●コヨシキリ ●オオジュリン
●アオジ ●ノビタキ ●オオジシギ

- 野鳥 (主に冬)**
●キレンジャク ●カケス
●ツグミ



- 《全域》**
4~5月◆エゾエンゴサク
5~6月◆オドリソウ
7~8月◆エゾカラマツ ●オオカサモチ
◆エゾフウロ



- 野鳥 (主に春~秋)**
●カワラヒワ ●ハクセキレイ ●コムドリ
●エゾセンニュウ ●ショウドウツバメ
●センダイムシクイ ●コヨシキリ ●オオジュリン
●アオジ ●ノビタキ ●オオジシギ

***野草園**
ここには、釧路地方に生育する多年草を中心に約120種の野草が集められています。早春から晩秋まで次々に花が咲き誇り、気軽に釧路の野草を観察できる場所となっています。

***ロックガーデン**
博物館横には北海道で産出する自然石を紹介したロックガーデンが造成されています。ここには約90点の岩石が集められており、岩石の構造の違いなどが観察できます。

***野鳥観察舎**
この観察舎は、野鳥を驚かさぬよう多数ののぞき窓が設置されており、すわってゆっくりと観察できるようになっています。また、野鳥のパネルも多数展示されており、気がるに野鳥観察が楽しめるようになっています。

***トンボの池**
かつては36種類のトンボが春採湖畔では記録されていたが、近年では春採湖の水質汚濁などの影響によりその種類や数が減りはじめていました。しかし、この池ができてから、再びトンボの飛翔が活発に見られるようになりました。



***春採湖の遺跡**
アイヌ語でハル・ウトウ・トウ（食べ物豊かな沼）と呼ばれる「春採」湖は、今から数千年前、まだ海の一部でした。そのころ住んでいた縄文時代の人々の土器や石器が沼尻遺跡に眠っています。幣舞中学校の近くには、春採湖が出来はじめたころ、縄文時代の人々の竪穴式住居跡（指定史跡「春採台地竪穴群」）があります。また、その後にすんだアイヌの人々の遺跡チャランケチャシも残されています。人々はこの集まって、語りあい、相談しあい、物事を決めたといわれています。

~水辺の鳥~



■ホシハジロ
(カモ科)
春採湖のカモ類の多くは、夏の間カムチャツカ、シベリアなどの北方の地で生活し、冬鳥として春採湖にやってきます。ホシハジロは、日本で唯一春採湖が繁殖地であることが知られています。



■カイツブリ
(カイツブリ科)
俗に「八町もぐり」などといわれ、潜水の名手といわれているのがこのカイツブリです。本州の温暖な所で冬を過ごし、初春、春採湖へやってくる夏鳥です。夏には微笑ましい子育ての様子が見られることがあります。



■オオバン
(クイナ科)
春採湖に夏鳥としてやってくるオオバンは、とても闘争本能が強く、繁殖期には、雄同士の激しいバトルが展開されます。体は全身黒色で顔の部分だけが白いでとてもよく目立ちます。ちなみに、顔が赤いのはバンです。